



・発行・
京都障害者
スポーツ振興会

題字 芝田 徳造

広州2010アジアパラ競技大会を

振り返って

日本障害者バドミントン協会
強化委員(車椅子担当)
松本 勲

大会全体の雰囲気ですが、
“すごい!”の一言に尽きる
と思います。

何が凄いのか?率直に、
「中国の国力恐るべし!」と
いった印象で、中国が国の威
信を掛けて今大会に取り組
んだ姿勢を窺えるものでし
た。

皆さんに文字で伝わるか
は疑問ですが簡単に紹介し
ます。

開・閉会式

いずれも夜の8時から開
催されました。

観客数(国又は市の動
員?)やマスゲームを含め、
パラリンピックに相当する
規模であったとの事です。

(他競技役員の話)

選手村

- ・居住ゾーン
- 洗濯施設、医療施設、レジ
- ヤ&レクリエーション施
- 設、食堂等の施設を設置。
- ・国際ゾーン

銀行、郵便局、ヘアサロン、
コンビニ、花屋、インフォメ
ーションセンター、宗教サー
ビスセンター等の施設を設
置。

・パブリックゾーン

ウエルカムセンター、ゲス
トセンター、メディアセンタ
ー、バスターミナル等の施設
を設置。

以上3つのゾーンが広大
な敷地の中に設けられ、選手
団が快適に大会期間を過ご
すのに十分過ぎる施設が設
置されていました。

ボランティアスタッフの動

員態勢

その数は把握できませんが、
選手村、各競技会場及び練習
会場、バスの添乗等あらゆる
部分でボランティアスタッフ
の姿を見る事が出来まし
た。特に、選手村居住棟の玄
関には24時間体制でボラン
ティアが配置されており、心
交代制で各棟の選手団のサ
ポートに当たっていたり、毎
日の部屋の清掃・ベッドメイ
キング・タオル交換等のサポ
ートをしてくれました。私の

居た棟のボランティアは皆
高校生で、日本語のレベルは
様々でしたが、サポートに必
要な日本語のフレーズを覚
えていて、出かけには「いつ
てらっしゃい」、帰った時に
は「おかえりなさい」の言葉
を掛け、懸命にサポートして
くれました。この高校生から
聞いた話では、アジア大会・
アジアパラ大会の期間中、大
学・高校が休みになり、大会
ボランティアとして従事し
ているとの事でした。日本で
は、到底考えられないことだ
なと驚きました。

大会会場等への移動

広州市は、市と言いながら、
日本の市の概念とは大きく
かけ離れており、愛知県に匹
敵する広さということです。
その広い市の中に競技会場
は点在しており、競技会場へ
は、選手村からの専用バスで
の移動でした。ちなみに、バ
ドミントン競技の会場は、約
38kmの距離にあり、交通事
情にもよりますがバスで40
分、60分掛かりました。

この移動には高速道路を
使うのですが、驚いたことに
料金所・走行レーン共に、大
会車両専用レーンが設けら
れており、速やかな移動が行
える配慮が施されていました。

バドミントン競技

以上、とにかく桁違いの運
営体制には驚かされました。
協会としては、今回の大会
で5個のメダルを目標とし

ていましたが、結果として3
個(金1個、銅2個)に留ま
ってしまい、満足のいく結果
とは言い難いものになりま
した。

個人的な見解で言います
と、競技力(精神面・技術面
合わせ)の部分で諸外国との
差が大きく開いていると感
じました。

私の担当する車椅子クラ
スにおいて、男子はW2・W
3の2クラスのシングルス
のみの実施となり、結果とし
て銅メダル1個に留まり、金
メダルは両クラスとも韓国
に持つていかれました。男子
は韓国が2歩・3歩リードし
ており太刀打ち出来ないとい
った感を受けました。韓国
は次回開催国であり、各種目
において国策での強化が行
われており、国費で競技に専
念できる環境が整備されて
いるとの事です。

また、女子については、国
際的に競技人口が少ない中
において、諸外国に太刀打
ちできない現状に有ります。

協会としては、現状を素直
に受け入れ、次回韓国大会に
向け、如何にして諸外国との
差を埋めていくかの方策を
検討する必要に迫られてい
ます。

行事予定	2月	19(土)	第22回全国車いす駅伝競走大会開会式等	グランドプリンスホテル京都	来月の つどいは 3 / 13 第2日曜日
		20(日)	第22回全国車いす駅伝競走大会競技・閉会式	京都市内駅伝コース	
			229回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
	27(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽		
	3月	6(日)	第28回視覚障害者京都マラソン大会	京都市西京極陸上競技場周辺	
		8(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	
9(水)		第16回京都ゆうあいフライングディスク大会	京都市障害者スポーツセンター		
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/				(2011年1月16日に一部更新)	

スポ振ルネサンス

〜心でつなぐ活動を！〜

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

今月20日には、北は宮城県（仙台市）から南は沖縄県までの23都府県・地域から200チーム出場を得て、毎年恒例となった「全国車いす駅伝競走大会」が行われます。

昨年は、関係者の期待と前年の覇者としての自信をバネに見事、優勝して2連覇を達成してくれ、嬉しい話題を残してくれました。ぜひ、今年も連覇を果たして欲しいものです。

また、様々な自らを取り巻く環境の壁を乗り越えて、厳冬の都大路を疾走する全国からのゲストたちに、心から声援を送ってあげたいものです。

さて、車いす駅伝競走といえど、関連した競技に車いすマラソンがあるのを皆さんもご存じだと思えますが、単独で開催されている大会のほか、近年では、ボストンマラソンなどを参考に、シテイマラソンなどに車いすを組み入れた大会が各地で開催されるようになってきました。

私たちの住む京都市でも、以前行っていた「ハーフマラソン」を、グレードアップする形で「フルマラソン」として、平成24年3月に新たに実施するという計画が進められていて、車いす競技の部も設けられるとのこと。

しかし、昨年の4月17日付の京都新聞紙上の記事発表について、スポ振ルネサンス(27)で「概要で少し気になることが

……と書いていたことが、現実となりつつあるのを見ると、京都障害者スポーツ振興会が永年行なってきた障害のある人々のスポーツを振興するという「運動」は、何だったのかと考えてしまいます。

それは、発表をされたマラソンコースでは、「鴨川河川敷」を筆頭に「車いすで走るのに困難な場所」ばかり、仮に走れるとしても距離が書いてありませんので、どのように走れるのか分かりませんし、それらがコースの一部ということなら、車いす競技はフルマラソンの対象と設定されていないのです。

今回もまた「京都シテイハーフマラソン」の時と同様に、車いす競技も入れていきますよ、というようなポーズ的な設定でしか考えられていないとしか言えません。

マラソンを実施する競合都市が増える中、観光名所や京の街並みなどを楽しみながら都大路を巡るコースを想定し、コース設定にあたっては、好タイムよりも、京都の魅力に触れてもらうことを重視して、「京都市らしさ」を出そうということは何の異論はありませんが、そのコース説明をみると、「鴨川河川敷」はもちろんですが、市民参加のマラソンコースとしては、「何を考えているの？」と首を傾げたいぐらいのコースであると思えます。

限られた車いすの選手が、限られた距離を走る前座のような設定で、「全国車いす駅伝競走大会」を主催し、2連覇をしているチームを輩出している「障害者スポーツ」の先進都市であると胸を張っていうことができるので

しょうか。

最近、開催されたり、計画されている何処のシテイマラソンに於いても車いすの部を当然のように設けられ、短い距離やハーフ、そして、フルと、障害のない人々と同じように、その人の力量に応じて参加でき、マラソンに挑戦できる傾向になってきています。

「京都シテイハーフマラソン」の時、僅かのキロという距離に押さえられながらも、自分たちの後に続く障害のある人々の良きお手本になるべく出場してくれていた車いすの選手たちは、フルマラソンになるのを機に、今回こそフルコースを当然走らせてもらえませんかと思つていました。

待たなくてもええよ、なんてフルコース走らしてくれへんの！」と、非常に悔しがっています。

一般的にも参加する選手は、「全国女子駅伝競走大会」や「全国高校駅伝競走大会」など、メジャーな大会と同じコースを走れるという想いを持って参加してくる人も少なくないと思われませんが、「観光都市宣言」をしている京都市として、観光名所や京の街並みを楽しみながら都大路を巡るコースを設定されることには、先にも書いていたように、何の異論はありませんが、今回発表されたコースは、市民対象のマラソンとしては、京の街並みを楽しみながら都大路を巡るコースというよりも、街の端へ追いやって普通では考えられない危険で不健康を市民に強いるコースであると思えます。

その昔いち早く「福祉のモデル都市宣言」をした京都の誇りを持って、ぜひとも、車いすを使用している障害のある人々にも、同じ機会を与えて欲しいと思います。

昨年の京都新聞紙上の記事発表に関連して、スポ振ルネサンス(27)で、京都陸上競技協会など京都障害者スポーツ振興会を含めた関係団体との京都マラソン開催準備委員会で協議されて正式なコースを決められるので、京都障害者スポーツ振興会としても障害のある人々のスポーツを支援する団体として、会議においてキチツと意見を主張して理解を求め、理想的な良いコースにするべきで、場合によっては、しっかりと申し入れなどをしていくべきだと書きました。

しかし、その会議に京都障害者スポーツ振興会の代表として出ている飯田理事長によりまして、昨年の4月に1度、会議が持たれただけで、しかも、具体的なコースの議題どころか、その提示さえもなかったそうです。

その後、9月末に準備事務局の職員の方が来られ、10月初旬から3回程度コース検討会を行うから、事前に説明したいとのことであつたので、コース案の説明を受け、聞かされたのが、このような耳を疑うようなコース設定の話で、事務局の方は、車いすは3キロくらいで考えている。

コース変更は今後の課題である。募集は、一般枠とは別に障害者枠を考えており、少しでも参加しやすいようにと考えている。などと言われていたそうです。

それらに対して、車いすはフルコースを指定されていない狭い道が多い急カーブや折り返しが多

アツプダウンがキツイ。河川敷は走れない。開催時期についても他大会と近かったり、重なったりしてトップ級の選手が出にくい。

等々の京都障害者スポーツ振興会としての意見を述べた上で、もちろん、「京都障害者スポーツ振興会として、飲める内容ではなく、了解できない」と返したことは言うまでもありません。

その後、コース検討会の内容は後日持参されたり、送付されてきたそうですが、結果的に意見は受け入れられないままのコースが発表されたのです。何の議論もせず、最初から「結論在りき」の内容であり、決して承服できるものではありません。

昨年未締切で、コースについてのパブリックコメントを募集されていましたが、「結論在りき」の内容で何をいまさらという感が拭い去れません。しかし、市民としての声は届けることは大切で、なぜか、今もコメントを募集されていますので、皆さんも是非、次の送信ホームに、声を届けていただきたいと思

ます。届 け 先 <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000093726.html>

京都障害者スポーツ振興会は、障害のある人々のスポーツ活動を支援し、振興をする運動体としての立場から、意見を早急にまとめ、方向を明確に打ち出すとともに、障害のある人々や障害者団体の協力を得て、コース設定の再考を求めていくべきと考えます。

急いで、昨年の4月17日付の京都新聞紙上の記事発表について、スポ振ルネサンス(27)で「概要で少し気になることが